

アートの研究領域の変遷に関する研究
A Research The Transition of Academic Research Areas of Art

1K08A137-0 武智 真志

指導教員 主査 平田竹男 先生 副査 中村好男 先生

【背景】

本研究は、アートにおける研究領域の変遷を明らかにした研究である。近年、様々な文献や新聞記事等でアートマネジメントの重要性が問われているものを目にするようになった。それにとどまらず、現在では多くの大学でアートに関する研究や、教育が盛んになり初めている。しかし、アートは多くの学問が融合した学際的な分野であるが故に、その全体像を捉えることは非常に困難である。

【目的】

そこで本研究では、学際的で全体像が見えにくいアートにおける学術研究の全体像を俯瞰し、その変遷を明らかにすることを目的とした。

【手法】

手法として、アート分野と、その中でも近年重要性が問われ急成長しているアートマネジメント分野の2つのコーパスに対して、1990年、1995年、2000年、2005年、2010年におけるアート分野と、アートマネジメント分野に関する論文を抽出し、そのトレンドを整理した。今回使用した論文データベースは、web of scienceである。その際に設定した検索クエリは、アート分野が「art OR arts」とし、アートマネジメント分野が「manage* OR business OR market* OR financ* OR econom* OR professional OR amateur OR starateg* OR advert* OR commerc* OR labor OR income OR revenue OR cost OR associat* OR administrat* OR govern* OR demand* OR suppl*」である。

【結果】

本研究の結果、アート分野に関する論文は、1990年において2888論文、1995年において5179論文、2000年において6941論文、2005年において7879論文、2010年において11097論文が抽出され、論文数の増加がみられた。アートマネジメント分野に関する論文は、1990年において129論文、1995年において704論文、2000年において1260論文、2005年において1757論文、2010年において3190論文が抽出され、アート分野と同様、アートマネジメント分野に関する論文も増加がみられた。その中でも特に、アート分野について、1990年においては芸術学や文学に関する研究が

盛んであったが、2010年にかけてその順位を下げた。その一方で、1990年から2010年にかけて工学やコンピュータ科学に関する研究の急激な増加がみられ、その順位が上がった。その変遷を年代別に見てみると芸術学は1990年1位、1995年1位、2000年1位、2005年1位、2010年3位である。また、文学は1990年2位、1995年2位、2000年3位、2005年5位、2010年6位であり、両分野とも年々その順位を下げる結果になった。その一方、工学は1990年8位、1995年3位、2000年2位、2005年3位、2010年1位である。また、コンピュータ科学は、1990年10位圏外、1995年7位、2000年6位、2005年2位、2010年2位と、両分野とも年々その順位を上げた。アートマネジメント分野について、1990年においては芸術学が最も盛んな研究対象であったものの、1995年4位、2000年3位、2005年6位、2010年10位圏外と、トレンドを下げた。その一方、工学とコンピュータ科学は1990年から2010年にかけて論文数が増加し、1995年から2010年にかけて工学が1位、コンピュータ科学が2位と上位を独占する結果となった。

【考察】

これらのことから、1990年時点において芸術学や文学といった研究対象が盛んに研究されていたが、2000年代にはあまり研究がされなかつた、あるいは他の研究領域の方が多く研究されるようになったと考えられる。また、工学やコンピュータ科学といった分野を研究対象とした論文は、1990年以降2010年にかけて急激に増加し、アートに関する研究のトレンドは芸術学や文学から工学やコンピュータ科学へと移行しているという知見が得られた。

本研究は、多岐に渡るアートに関する研究の全体像、歴史的な進化を把握することに役立つ。本研究の手法を用いて、定期的に最先端のアートに関する研究のトレンドを整理していくことが、我が国におけるアート研究の成長の一助となれば幸いである。